

(様式第 2 号)

SDGs 達成に向けた宣言書 (要件 1)

令和 7 年 12 月 1 日

所在地 山梨県甲斐市宇津谷 873
企業名 有限会社 創美社
代表者 代表取締役 河野昭造

当社は、SDGs の内容を理解し、SDGs 達成に向けた方針及び取組を下記のとおり宣言します。

記

SDGs 達成に向けた経営方針等

環境美化事業を通じて、地球と地域が抱える環境課題の解決に取り組み、お客様と地域のより豊かな環境づくりに貢献いたします。

3 側面 (主な分野に☒)	SDGs 達成に向けた重点的な取組	2030 年に向けた指標	重点的な取組及び 指標の進捗状況	
			登録年月日：令和 4 年 12 月 1 日	
☒環境 ☒社会 ☒経済	飲食店、旅館・ホテル、食品製造工場、食品小売業の浄化槽・グリストラップの廃棄物(汚泥など)削減。	2020 年対比で浄化槽・グリストラップの廃棄物を削減する。 現状：2/5 ⇒2030 年:4/5	汚泥分解システムのバージョンアップにより、汚泥の発生を従来より削減させられるようになった為、廃棄物も削減。 2025 年：3/5	(進捗率) 75%
☒環境 ☒社会 ☒経済	廃棄物(汚泥)削減により、バキュームカーでの汲み取り回数削減 処分場までの車で配送回数削減による CO2 排出量の削減。	2020 年対比で汲み取り回数を削減する。 現状：1/3 ⇒2030 年：2/3	汚泥分解システムのバージョンアップにより、汚泥の発生を従来より削減させられるようになった為、廃棄物も削減。 2025 年：3/5(システム導入先へのヒヤリングによる)	(進捗率) 90.9%
☒環境 ☒社会 ☒経済	廃棄物削減による、廃棄物処理費用の削減(取引先のコストと地域の処分場でのコスト)	2020 年対比で廃棄物処理費用を削減する。 現状：-10% ⇒2030 年：-20%	汚泥分解システムのバージョンアップにより、汚泥の発生を従来より削減させられるようになった為、廃棄物も削減。 2025 年：-12%(システム導入先へのヒヤリングによる)	(進捗率) 60%

2030 年の目指す姿

お客様と地域の浄化槽やグリストラップから発生する廃棄物(主に汚泥)の発生量 1/2(2020 年対比)。
バキュームカーでの汲み取り回数 1/3 (2020 年対比)。(すでに 2020 年よりこの取り組みに着手しています)

【記載留意点】

- ・上記については「SDGs 達成に向けた経営方針等」を記載いただくとともに、(様式第 3 号)「SDGs 達成に向けた取組チェックリスト」(要件 2)に記載いただいた取組を踏まえ、「SDGs 達成に向けた重点的な取組」を記載してください。
- ・指標は、原則として数値目標を記載してください。
- ・「環境」、「社会」、「経済」の **3 側面の全てについて**重点的な取組を記載してください。該当する分野にチェックを入れ、取組が複数の分野にまたがる場合は、複数にチェックを入れてください。
- ・重点的な取組及び指標の進捗状況については、新規登録時は記入不要です。